

コミュニケーション支援専門研究会(SIGCE) 第2回研究談話会報告

かんせいがくいん

関西学院大学 山本 倫也 (コミュニケーション支援専門研究会運営委員)

コミュニケーション支援専門研究会(SIGCE)の第2回研究談話会が、NPO 法人シンビオ社会研究会の共催、科学研究費補助金特定領域研究「情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究」の協賛で、2009年11月28日(土)10:30~17:00に関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催された。今回の研究談話会は、「コミュニケーションを知る」と題して、基礎と応用の両側からコミュニケーションを知り、支援するアプローチについて考える機会とし、午前は関西学院大学の長田典子先生と京都大学大学院の平山高嗣先生による特別講演、午後は6件の一般講演を行い、25名の参加があった。

午前の1件目は、関西学院大学長田典子教授による「コミュニケーションと感性」と題する特別講演であった。「のだめカンタービレ巴里編」に採用されたピアノCGアニメーション、映像メディアと音楽メディアの相互作用、fMRIを用いた共感覚の計測など、独自の視点に基づく研究紹介の後、CMの挿入タイミング、主観年齢推定など、コミュニケーションと感性にかかわる研究について、脳機能計測、外国人による実験結果などを交えて、様々な取り組みが紹介された。長田先生ご自身が音を聞くと色が見える共感覚をお持ちであるということも含めて、講演後までざっくばらんなディスカッションの時間となった。

2件目は、京都大学大学院平山高嗣先生による「Mind Probing: プロアクティブインタラクションによって心を読む」と題する特別講演であった。気になる情報との「捜遇(そうごう:多くの中から好みの物を捜し、潜在的な興味対象に偶然に出会うこと)」をサポートする情報コンシェルジュを目指して研究中の、見る行為をまねることで注視行動への興味を顕在化させるGaze Mirroringに関して、じっくりと紹介された。見る、というインタラクションについて改めて考えさせられる講演で、時間いっぱいまで熱心な議論が続いた。

午後の一般講演は、「基礎編」「応用編」2つのセッションとした。「基礎編」では、まず「身体のはたらきを活かすプレゼンテーション支援に向けて」と題して私がデモを交えて講演し、次いで京都大学大学院大本義正先生による「コミュニケーション中の人間の内部推定に関する一考察」、同志社大学大久保雅史先生による「プロジェクト活動におけるコミュニケーション力の養成事例」の講演であった。大本先生による嘘を見破る研究、大久保先生によるフィンランドメソッドによるコミュニケーシ

ョン力の養成など、議論がつきない興味深い内容であった。

「応用編」では、パナソニック原田久美氏による「大画面での写真共有によるコミュニケーション」、京都大学大学院青柳西藏氏による「教育用ディベートシステムを用いた学習プログラムの実践」、西日本旅客鉄道藤野秀則氏による「組織におけるコミュニケーションの役割～情緒的側面への影響」の講演があった。大画面テレビ、ディベートシステム、キャラクターエージェントと、それぞれ異なるアプローチであるものの、人の特性に基づきコミュニケーションを支援する研究の紹介が続き、参加者一同、熱心に耳を傾け、議論にも花が咲いた。

今回は、昨年までの共生システム専門研究会(SIGCOM)を引き継ぐ運営委員企画という形で、SIGCEの談話会を開催した。ポイントは、来年度から談話会が研究会に格上げされることを念頭に、これまでセミナー形式で行っていた談話会に、一般講演をドッキングさせたことで、結果として、研究発表や各種取り組みを講演していただき、盛りだくさん、非常に充実した談話会となった。駅近の会場で、運営委員以外にも多数の参加があり、SIGCEのコミュニティが広がるきっかけになればと願う次第である。また、教職員による大阪梅田キャンパスの教室利用は無料で、本学研究推進社会連携機構の学術集会開催補助も受けることができるので、是非お声かけいただきたい。

最後に、この機会を与えてくださったSIGCE主査の藤田欣也先生、シンビオ社会研究会会長の吉川榮和先生はじめ関係者の皆様、突然の講演依頼をご快諾いただいた先生方、参加者各位に深く感謝する。



講演中の長田典子先生



会場風景